

## 資料1－2 [サケ類]に対する帰山委員の意見

### ○管理計画・調査・モニタリング項目評価担当一覧

- ・ 旧態とした種レベルのモニタリング体制→生態系レベルでの評価ができていません。
- ・ 生態系と生態系をつなぐ「相互作用」に関する評価体制となっていません。
- ・ サケ類：12：遡上状況→物質循環を評価できるバイオマス把握がされていますか？  
「海と陸との相互作用」
- ・ 15: 今後もやるということですか？
- ・ 16：これまでに何が得られて、今後何を明らかにできるのでしょうか？

### ○評価シート

- ・ それぞれの項目に直接記載
- ・ 知床世界自然遺産のクライテリア達成の目的はどこにいったのでしょうか？すなわち、「陸－海生態系の相互作用」に関する考え方および方針は？
- ・ 用語「遡上」には物質循環におけるバイオマスとしての意味合いが基本となりますが、12はそれを反映しているのでしょうか？
- ・ 「マス」なる非科学的分類用語は避けるべきです。少なくとも、「サクラマス」と「カラフトマス」に分けて漁獲量を示すべきでしょう。また「増加、概ね横ばい、減少」も抽象的な表現です。まずベースに対する偏差を明確にし、それに対して「増加、安定、減少」なる定義を行うことが先決ではないでしょうか。
- ・ 「産卵床数」は「遡上状況」を評価しません。これはあくまでも産卵床数にすぎません。
- ・ 「マス」はきちんと「サクラマス」と「カラフトマス」に分けるべきでしょう。
- ・ 「15. サケ科魚類による栄養素輸送に関する調査」には、肝心の物質循環の結果が何ら記載されておりません。MDNがどれだけ陸域へ運ばれたのかが最も重要な結果のはずです。